コラーレ開館5周年記念特別企画

伝説のピアニスト

演奏曲目

ブラームス：インテルメッツォ第1番・第2番
二つのラプソディー op.79
ドビュッシー：水の反映
喜びの島
ショパン：ポロネーズ イ長調 op.40/1
バラード ヘ短調 op.52
スケルツォ 嬰ハ短調 op.39 ほか

Van Cliburn

ヴァン・クライバーン　ピアノ リサイタル

Piano Recital

奇蹟の黒部単独公演!!

2000
10/22(日)
14:30開場
15:00開演

黒部市国際文化センター
コラーレ
(カーターホール)

■入場料／S席 ¥12,000
A席 ¥10,000
B席 ¥ 6,000
〈全席指定〉

主催／黒部市　財団法人黒部市国際文化センター
共催／北日本新聞社　北日本放送
後援／アメリカ大使館　黒部市教育委員会　株式会社 BMGファンハウス
制作協力／株式会社 パシフィック・ミュージック　有限会社 インタースペース

◆プレイガイド

(黒部市)	コラーレ	☎0765-57-1201
	メルシー	☎0765-54-2221
(魚津市)	新川文化ホール	☎0765-23-1123
	魚津サンプラザ	☎0765-24-3030
(入善町)	コスモホール	☎0765-72-1105
	コスモ21	☎0765-74-9100
(宇奈月町)	宇奈月国際会館	☎0765-62-2000
(朝日町)	アスカ	☎0765-82-2000
(富山市)	インフォマート	
	【市民プラザ】	☎076-491-0110
	【CiC駅前店】	☎076-444-7013

■5歳未満のお子様の入場はご遠慮ください。
■一時保育を希望される方は事前にご連絡下さい。(無料)

お問い合わせ／富山県黒部市三日市20 コラーレ(クライバーン・チケットセンター) TEL.0120-671-202

Van Cliburn Piano Recital
ヴァン・クライバーン ピアノリサイタル

プロフィール

1934年7月12日、アメリカ合衆国ルイジアナ州シュリーヴポートに生まれる。フランツ・リストの孫弟子に当たるピアニストであった母リルダから、3歳の時からピアノの手ほどきを受ける。12歳でテキサス州ピアノ・コンクールに優勝し、ヒューストン交響楽団と共演してオーケストラ・デビューを果たすなど、早くから才能を現した。17歳でニューヨークの名門ジュリアード音楽院に入学、モスクワ出身のロジーナ・レヴィンに師事。1954年にはニューヨークのエドガー・M・レーヴェントリット賞を受賞して、名指揮者ミトロプーロス率いるニューヨーク・フィルと共演した。しかしその後、故郷の町に戻り、母リルダのピアノ教室を手伝って過ごす。

1958年、愛弟子の行く末を案じた恩師ロジーナ・レヴィンの勧めで、ソ連初の国際音楽コンクールである第一回チャイコフスキー記念国際コンクールに出場したクライバーンは、たちまちモスクワの話題を独占してしまう。力強いテクニック、ロマンティックな音楽性に加えて、190センチの長身に、ブロンド、グリーンの瞳、夢見るような目鼻立ちを持つ若きピアニストの快進撃は、遠いアメリカへもニューヨーク・タイムズ紙の記者のペンにより逐一報告された。4月12日、ついに優勝の栄冠を勝ち取ったクライバーンは、アメリカの英雄として凱旋帰国。アイゼンハワー大統領自ら空港まで出迎え、ホワイトハウスで祝賀パーティーが催された。ニューヨークでは、5番街を花吹雪と歓声に包まれながら、オープンカーでパレード。彼が弾いたチャイコフスキーのピアノ協奏曲第一番のレコードは、300万枚を超える驚異的売り上げを記録した。1961年には、ヴァン・クライバーン財団が設立され、翌年ヴァン・クライバーン国際ピアノ・コンクールが誕生。1966年には初来日も果たし、世界のトップ・ピアニストとして、華やかな活動を続けた。

しかし1978年、音楽家としての円熟期ともいえる43歳で、クライバーンは演奏活動からの引退を宣言。以来、ホワイトハウスやチャリティー・コンサートでの特別な演奏を別にして、ほとんど沈黙のうちに過ごした。

伝説のピアニストの復活は、1987年のゴルバチョフ書記長を迎えたホワイトハウス主催晩餐会での演奏が予兆となる。89年、クライバーンはチャイコフスキー・コンクール決勝の場であるモスクワ音楽院大ホールで演奏した。そして94年には全米コンサート・ツアーを行い、多くのファンを熱狂させて、完全復活を印象づけた。96年3～4月には、21年ぶりに来日してコンサートを行い、今も変わらぬ素晴らしい演奏と人間性の魅力で、新たなセンセーションを巻き起こしている。

クライバーン～生き続ける伝説

ヴァン・クライバーンを聴くことは、生きている歴史を聴くことである。1958年の第1回のチャイコフスキー国際音楽コンクール。冷戦時代真只中のモスクワで開かれたこの音楽コンクールは、ソヴィエトの優秀な教育システムを世界中に知らしめるために開かれたとも言われている。しかし、そのピアノ部門で第1位を獲得し、モスクワっ子の喝采を浴びたのは、当時23歳の、無名で、ノッポのアメリカ人青年=ヴァン・クライバーンだった。何という皮肉だろう。ジュリアード出身の彼がニューヨークに帰ると、まるで凱旋将軍のような紙吹雪パレードが待っていた。素晴らしいテクニックだけでなく、人間性でも他人を魅了する彼。RCAとの専属契約が決まり、次から次へとコンサート会場を回る生活が始まった。1962年には彼の名前を冠した国際ピアノ・コンクールもできた。だが、そんな「音楽セレブリティ」の生活は、彼を次第に疲れさせ、クライバーンは1978年に公式のコンサート活動をいったん休止する。

しかし、そこまでは彼の人生の序幕と第一幕に過ぎなかったのだ。1987年、ホワイトハウスを訪れた当時のゴルバチョフ書記長の前で演奏し、活動を再開。モスクワ、サンクト・ペテルスブルクでの演奏会も大成功させ、新たなキャリアを踏み出した。その後のクライバーンの演奏会では、彼の愛して止まない作品、特にショパン、ブラームス、ドビュッシーの小品が繰り返し演奏されている。それらは、熱く長いキャリアを経て、ピアニスト・クライバーンが丹精込めた、音楽の庭に咲く慈しむべき美しい花々なのである。

クライバーンを聴くことは、確かに戦後というひとつの時代の足音を聴くことである。しかし、同時に、クライバーンを聴くことは、才能あるピアニストが到達したひとつの音楽的世界を、共に体験することでもある。そして、それはこの20世紀における希有な音楽的体験となるだろう。

片桐卓也(音楽ジャーナリスト)

PROGRAM

ブラームス：インテルメッツォ第1番イ短調 op.118
インテルメッツォ第2番イ長調 op.118
カプリチオ第3番ト短調 op.116
インテルメッツォ第6番　変ハ短調 op.118
二つのラプソディー op.79　ロ短調アジタート
ト短調モルトパッショナート

ドビュッシー：エチュード　12の練習曲第1巻より「オクターブのため」
月の光がふりそそぐテラス
水の反映
喜びの島

ショパン：ポロネーズ　イ長調 op.40/1
バラード　ヘ短調 op.52
スケルツォ　嬰ハ短調op.39

(演奏曲目は都合により変更になる場合がございます)